

1. 「大学入学共通テスト」とは？

* 2021年1月から実施 (新高2生が受験する年)

これまでのセンター試験と同様、1月中旬の2日間で実施。

* 出題教科・内容

「共通テスト」は、現行の学習指導要領で学んだ生徒が受験する2020～2023年度と、次期学習指導要領で学んだ生徒が受験する2024年度以降で、出題・解答方法などの制度設計を分けて検討中。

導入当初の出題教科・科目は、現行のセンター試験と同様の6教科30科目が予定されていますが、2024年度以降は簡素化する方向で見直される。

現在のセンター試験からの大きな変更としては、記述式問題の導入と、英語での4技能(読む・聞く・話す・書く)を評価。

新テストでは、「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を重視するという考えが基本。



マークシート式問題も見直しを検討



試行調査(プレテスト)の問題でも、マークシート問題にも作問や出題形式にこれまでとは違った傾向
具体例：複数の情報(文章・図・資料)を組み合わせて思考・判断させる問題

出題形式も、当てはまる選択肢をすべて選択する問題、解なしの選択肢を解答させる問題

「大学入学共通テスト」出題教科・科目

教科	出題科目	科目選択の方法	試験時間
国語	「国語」		100分
地理 歴史	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」	出題科目10科目のうち 最大2科目選択解答 ただし、同一名称を含む科目の 組合せは不可	1科目選択60分 2科目選択130分 (解答時間120分)
公民	「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 「倫理,政治・経済」		
数学	① 「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	出題科目2科目のうち 1科目選択解答	70分
	② 「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	出題科目4科目のうち 1科目選択解答	60分
理科	① 「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	下記A～Dの選択方法により 科目を選択し解答 A：理科①から2科目 B：理科②から1科目 C：理科①から2科目 +理科②から1科目 D：理科②から2科目	理科① 2科目選択60分 理科② 1科目選択60分 2科目選択130分 (解答時間120分)
	② 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」		
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」「韓国語」	出題科目5科目のうち 1科目選択解答	筆記(リーディング) 80分 リスニング(英語のみ) 60分(解答時間30分)

※2018年6月大学入試センター公表資料より

2. 英語の4技能評価を導入とは具体的にはどういうことか？

* 英語は4技能（読む・聞く・話す・書く）を評価するため、**実施形態を含めて大きく変わる**。
センター試験のような大規模な集団で一齐に「話す」「書く」に関する試験を実施するのは困難



すでに4技能評価を行っている民間の資格・検定試験を活用

* 英語は2020年度から2023年度までは大学入試センターが作問し共通テストとして実施する試験と、民間の資格・検定試験の両方が用意され、**各大学はいずれかまたは双方を利用可能**。

大学入試センターが作問する英語の試験は、現行の「筆記」は「筆記（リーディング）」に改められ、試験時間は「筆記（リーディング）」80分、「リスニング」60分（うち解答時間30分）と変更なし。

民間の資格・検定試験については、その活用を支援するため「大学入試英語成績提供システム」が設置される予定。一定の要件を満たすことが確認された資格・検定試験がこのシステムに参加。2018年3月末に、2020年度に実施される最初の共通テストで活用される資格・検定試験は以下の通り

<採用が決まった8種類の資格・検定試験>

1. ケンブリッジ英語検定
2. TOEFL iBT テスト
3. IELTS
4. TOEIC Listening & Reading Test および TOEIC Speaking & Writing Tests
5. GTEC
6. TEAP
7. TEAP CBT
8. 英検（従来型は不採用。1日完結型、公開会場実施、4技能 CBT の新方式採用）

注：従来の英検と新方式の問題形式・内容は同じ。実施方式が変わるだけ。

* 成績提供システムに参加する資格・検定試験の受検者は、**高校3年生以降の4月～12月の間に受検した2回までの資格・検定試験の結果**が大学に提供される。提供される成績は、各試験のスコア（バンド表示も含む）と CEFR（*）の段階別表示、（合否がある場合は）合否。

注：CEFR [ヨーロッパ言語共通参照枠 / Common European Framework of Reference for Languages]：外国語の学習・教授・評価（Learning, Teaching, Assessment）のための国際指標。

3. 「大学入学共通テスト」はどう使われるか？

* 「大学入学者選抜実施要項」の見直し

共通テストが実施される 2021 年度入試から新たなルールを設定したものに**見直され**、従来の一般入試は一般選抜に、AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜へと、それぞれ変更される予定。**総合型選抜や学校推薦型選抜において、書類だけでなく、小論文や口頭試問、共通テストなどを活用することが必須化。**一般入試では、「国語を中心とした記述式の導入・充実」「英語の 4 技能評価の導入」

* 国公立大の共通テスト活用方針

国立大では、一般選抜において、**原則すべての国立大で 1 次試験として共通テストの 5 教科 7 科目を課すとともに、英語については共通テストの英語試験と民間の資格・検定試験を併せて課す方針。**また、記述式問題（国語・数学）についても一般選抜の全受験生に課すとしています。

英語の資格・検定試験および記述式問題の成績の活用方法は、

① 出願資格とする：東京大、東京外国語大、名古屋大、大阪大、大阪市立大など。**要求される C E F R レベルは A 2 (英検準 2 級レベル)**がほとんど

② 共通テストの英語の得点に加点する：弘前大、群馬大、名古屋工業大、岡山大、佐賀大など

③ これら双方を組み合わせて活用する：東京工業大、長崎大など。

出願資格の水準や加点する点数等についての具体的な設定は各大学・学部等が主体的に判断。

国語の記述式問題は、段階別に示された結果を点数化してマークシート方式の得点に加点して活用することを基本、加点する点数等の具体的な設定は、各大学・学部等が定める。

④ 国語記述式については、活用を表明している国公立大のほとんどが段階別表示を点数化して利用。

* 京都大学の活用方針(大学発表資料一部抜粋・筆者注)

(1) 大学入学共通テストの利用について

大学入学共通テストの成績を利用しますが、現在の大学入試センター試験における教科・科目の利用内容と異なる場合には、平成 30 年度内に予告します。

(2) 大学入学共通テストの「英語」について

大学入学共通テストの外国語において英語を受験した出願者には、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の尺度において A2 以上の英語の言語運用能力を有することを求めます。出願者が A2 以上の言語運用能力を有していることは、以下の方法によって確認します。

出願者が、独立行政法人大学入試センターによる「大学入試英語成績提供システム」を通じて英語にかかる民間の資格・検定試験（以下、「認定試験」という。）の成績を提出する場合は、その成績が CEFR の尺度において A2 以上に相当することを CEFR との対照表（文部科学省 平成 30 年 3 月）によって確認します。この方法に代えて、出願者が、在学するまたは卒業した高等学校等の校長が CEFR の尺度において A2 以上の英語の言語運用能力が出願者に備わっていると認める書類を提出する場合は、その書類の記載内容によって確認します。（筆者下線、注：**民間試験の成績提出は必須ではない。東大や名古屋大も同様、大阪大は出願資格とする予定**）

(3) 大学入学共通テストの「国語」の記述式問題について

大学入学共通テストの国語の記述式問題の採点結果（段階別評価）を点数化し、マークシート式問題の点数と合算して国語の成績とします。

その方法は、独立行政法人大学入試センターが段階別評価に関する内容を発表した後、検討のうえ公表します。

*私大の動き

慶應大学(大学発表資料一部抜粋・筆者注)

慶應義塾大学の全学部（文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部）において、学部一般入学試験は以下のとおり実施します。

1. **大学入学共通テストは利用しません。**従来のとおり、各学部のアドミッションポリシーに則った入学選抜を実施します。
2. **英語外部検定試験は利用しません。**従来のとおり、英語外部検定試験の受検およびスコア等の提出は課しません。

将来的な英語外部検定試験の利用については、引き続き検討を行います。

早稲田大学 政治経済学部 (大学発表資料一部抜粋・筆者注)

一般入試改革

1. 改革の方向性 一般入試について、**大学入学共通テスト、英語外部検定試験、学部独自試験（日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式）**の合計点により選抜する方式に変更します。

2. 一般入試改革の内容 (1) 試験内容（政治学科・経済学科・国際政治経済学科共通、合計 200 点満点）

1) 大学入学共通テスト（100 点）以下 4 科目を 25 点ずつに換算する。

① 外国語（以下いずれか 1 つを選択） ・英語（リスニングを含む） ・独語 ・仏語

② 国語

③ 数学 I ・数学 A

④ 選択科目（以下いずれか 1 つを選択） ・地理歴史「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」から 1 科目 ・公民「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から 1 科目 ・数学「数学 II ・数学 B」 ・理科「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 2 科目 あるいは「物理」「化学」「生物」「地学」から 1 科目

2) 英語外部検定試験および学部独自試験（100 点）

・使用できる英語外部検定試験は、大学入学共通テストで活用される試験を前提として検討中です。 ※英語外部検定試験の配点割合は 2) の 3 割程度（全体の 15%程度）とする予定です。

・学部独自試験は 1 科目のみを 90 分間で実施します。なお、日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式とし、記述解答を含むこととします。

4. 平成 30 年試行調査 問題分析 受験生向けの実際の問題解説は別途行います

「平成 30 年度試行調査（プレテスト）」（以下、第 2 回試行調査）は、問題作成や採点方法、試験の実施運営等を含めたより実際の試験実施体制に近い総合的な検証を目的として、平成 30 年 11 月 10 日・11 日に、全国約 8 万 4,000 人（大学入試センター発表受検予定者数）が参加して実施された。

英語（筆記 [リーディング]）

[分量・難度]

試験時間は 80 分。大問数は 6 題。

第 1 回試行調査と同様、発音やアクセント、語句整序、独立した文法問題の出題はなく、**読解問題のみの出題**。総語数もほぼ同じ。

[学習指針]

英文の、概要を捉えたり、必要な情報を的確に読み取る練習を繰り返すこと必要。また、文法・語法の単独出題はないが、基本的な文法・語法力は当然読解に必要となるので決して軽視しないこと。

英語（リスニング）

[分量・難度]

試験時間は 30 分。大問数は 6 題。

第 1 回試行調査同様、読み上げ回数が 1 回読みと 2 回読みが混在する構成で実施。

センター試験よりも自然な英語の読み上げ方となっており、慣れていないと聞き取りにくい。また分量の多い、後半第 4 問以降の読み上げが 1 回読みで、センター試験よりも難度が上がっている。

[学習指針]

英語を母語としない国の読み上げ者もおり、教材的な音声ではなく、**自然な読み上げ方**をしているので、早期段階から、そのような読み上げ音声に慣れておくこと。**配点が筆記（リーディング）と同じ 100 点**となったことも大きな特徴であり、早期の対応が必須と思われる。

数学 I・数学 A

[分量・難度]

試験時間は 70 分。大問数は 5 題（受験生が解答する大問数は 4 題）。

記述式問題があり、試験時間がセンター試験の 60 分から 70 分へと増加。解答を導くための誘導を排除した出題形式もあり、**自分で考える分量が増加し、難度が高くなっている**。

[学習指針]

長文から条件を読み取りながら解く訓練をすることが必要。また単に公式を覚えて使いこなす学習では対応できないため、結果に至るプロセスを大切に学習が重要となる。

数学 II・数学 B

[分量・難度]

試験時間は 60 分。大問数は 5 題（受験生が解答する大問数は 4 題）。

解答を導くための誘導がみられず、**難度が高い出題がみられる**。また選択問題の難度にばらつきがあり、

類似問題を過去に解いたことがあるか否かで得点に差が出る可能性がある。

【学習指針】

選択肢からあてはまるものを「すべて選べ」という設問がみられたが、グラフを選ぶ設問は減った。未知の題材を含む問題に対して、積極的に取り組む態度が必要である。

国語

【分量・難度】

試験時間は100分。大問数は5題。

記述式問題が追加され、試験時間が80分（センター試験）から100分へと増加、現代文3題（記述式問題1題含む）、古文1題、漢文1題の構成。センター試験とほぼ同程度の難度。

現代文は論説文と実用的な文章（ポスターの文章、法律条文）が出題。また、詩とエッセイも出題された。大学入学共通テストでは短歌、俳句、詩、エッセイ、文芸評論などの出題も考えられる。

古文の問題文は『源氏物語』長さもセンター試験とほぼ同じ程度。

漢文では故事成語の原典漢文の訳と、当該の故事成語と関連する漢文が出題。

【指導】

基本的な知識や読解力、記述力を養うことは当然であるが、複数のテキストを関連づけて解答するような問題に慣れておく必要がある。